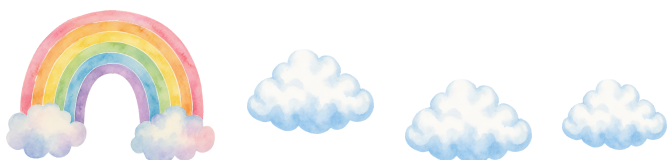


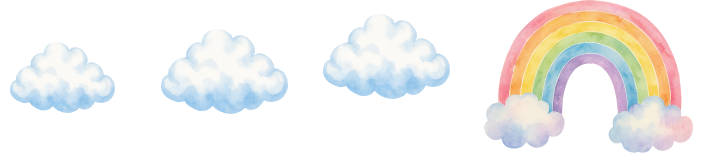
沖縄プロジェクトレポートⅣ

東京土建渋谷支部 書記 工藤真由

2026年6月9日火曜日、目黒支部の壮行会にお邪魔しました。居心地が良すぎてもはや自分の支部にいるような気分で、聖子さん達お手製の絶品料理や泡盛を頂きました。最後にみんなで歌った島唄は、子どもの頃の我が家のテーマソングで、旅行の際は必ず車の中で家族で歌っていました。

今年も本当に沖縄に行けるんだ。私に何が出来るだろう？何を持ち帰って来れるだろう？ふわふわと現実感のないまま、出発前夜の6月24日が来てしまいました。沖プログループLINEは沖縄に接近中の台風4号と、予測不能な動きをする5号の話題で持ちきりで、沖縄に無事行けたとしても、いつ帰れるかは不明な状況。結局「土曜日に帰れなくてもまあしょうがない」という人たちが決行を決意。私は自宅でLINEのやりとりを見守りながら、万が一飛行機が飛ばなかったらどうしようと悲しい気持ちでオリオンビールを飲んでいました。



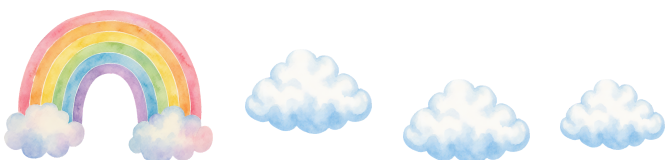


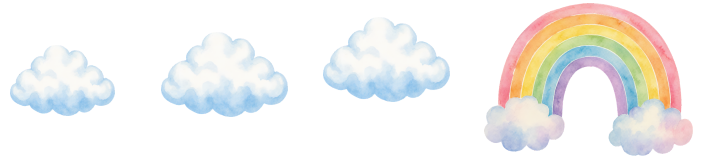
そして翌日、東京は雨→沖縄は夏！空港に着いたらとても眩しいいつもの沖縄でした。家を出る直前に、どうせ台風だし、と思って玄関にラッシュガードを置いてきた自分を恨むほどの日差し。この濃い青空、熱風のような空気、本当に沖縄だ、と目が覚める思いでした。結局25日から27日にかけて、ちゃんと台風にも見舞われた3日間。その記録です。

25日、伊芸サービスエリアで急いでお昼ご飯のアーサーそばをいただき辺野古へ。台風が来ているため午後の土砂搬入は中止とのこと。機動隊と相まみえることが出来ず、一瞬残念な気分になってしまいましたが、搬入なんて永遠になれば良いのだからこれは嬉しいことだと反省しました。

現地の方から埋め立ての状況に関する最新情報を聞き、混乱しました。「世界一危険な普天間基地返還のための辺野古基地建設」と表向きは言っておきながら、米軍の飛行場ではなく港湾の建設が主目的な可能性が出てきていること。それでも軟弱地盤に何年も何年も土砂と税金を投入し続けていること。本土のニュースでは一切流れていないこと。

不屈丸と平和丸の事故についても言及されていました。海上保安庁が現場に10分ほどで駆け付けていながら船長の求める救助に1時間も対応しなかったこと。当日は波浪警報が出つつも漁に出る船がいるほどな天気の中、海上保安庁の船がいきなり転覆するほど事態が急展開を遂げたこと。解明が必要な問題が沢山ある中での、国家による平和教育に対する介入。





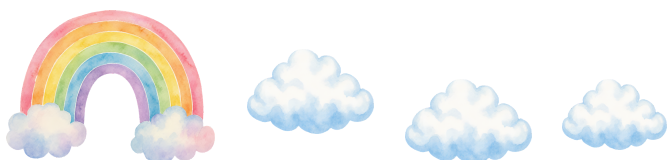
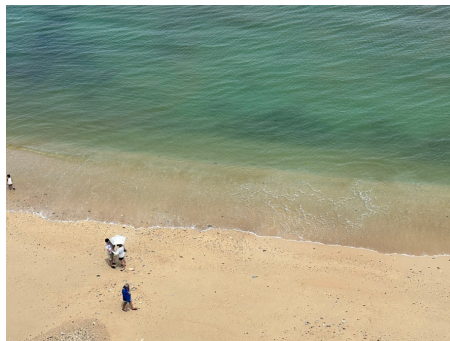
やるせない気持ちが押し寄せつつ、みんなで台風に備えてテント村の天幕を折り畳む作業を手伝いました。

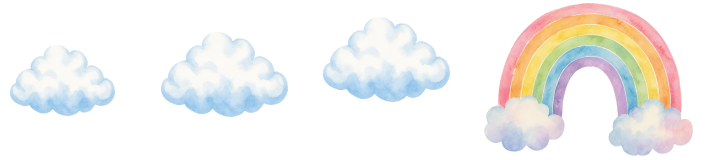
いつも誰かが静かに守っていた辺野古の海側のテントはなくなっていました。事故の悲しみの深さ、問題の深刻さを目の当たりにしました。

26日は台風で外出不可。午前中はホテル内で、まさかのW杯サッカーを観戦しました。午後から島を北上し、丼&麺のパワーランチをいただきました。その後勉さん曰く書記の執念で、雨風吹き荒ぶ辺戸岬を見学。堀田さん、山本さんと、祖国復帰闘争碑をカメラに収めました。

北部訓練場、東村に行き、久しぶりにブロッコリーハウスへ。様々な国の人達と米軍基地反対運動で連帯する頼もしい場所になっていました。

最終日の27日は、沖縄陸軍南風原壕群20号へ。ひめゆりの塔で存在は知っていましたが、入るのは初めてでした。暗くて狭くて怖くて、当時のことを想像したくない、何も考えたくないと思いながら涙が出ました。なんて酷いことを彼女達に体験させたんだと怒りで変になりそうでした。

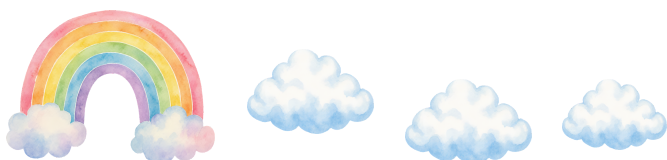


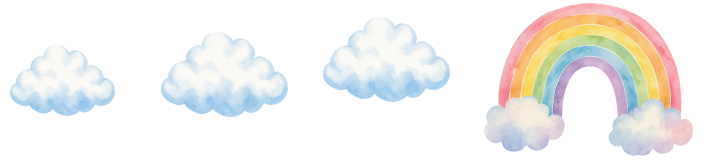


その後に行った町立南風原文化センターの戦争遺跡や当時の生活の記録の充実ぶりも凄かったです。何度も沖縄に来ているのに、なぜここに今まで来なかったんだろう？日本で唯一地上戦になった沖縄。住民の4人に1人が犠牲になった沖縄。もしかしてわたしが知らないだけで、こういう施設は他にも沢山あるのかもしれない。もっと能動的に調べなくては、と思いました。

最後は建設途中の首里城へ。館内で、首里城を建てる過程の説明映像を建設労働組合の書記として誇らしく見ていました。外は蒸し暑く、ぶ厚い雲の中を米軍の戦闘機が轟音で飛んでいました。

今回は、不屈を自分のこととして体感した旅でした。沖縄の戦後史としての不屈の運動は学んできましたが、今も沖縄で強いられていること、その闘いに私も参加していること、連綿と続く平和への闘いをし続けること。それが不屈なんだと。





沖縄の平和の礎に、祖父の弟の名前が刻まれていることを最近知りました。知覧からの特攻隊員として沖縄戦で19歳で死んだのです。

もう絶対そんな世の中は作らせない。

目黒支部の皆さん、今年も連れて行ってくれてありがとうございました。あっという間すぎてもう沖縄に行きたいです。頼れる村上書記による幹事、本当にお疲れ様でした。時速80kmを超えるとすぐに危険を知らせる我が2号車を運転してくれた山本書記と涼平くん。平和について語り合ってくれた勉さん。そして沖縄を根こそぎ愛し、平和のために学び尽くす同志、堀田ゆうこりん。誘ってくれて、本当にありがとうございました。

